

千里国際学園 中等部・高等部

シリーズ「世界は千里でひとつになる The World Comes Together in Senri」 第20回

千里国際学園の情報科の授業

情報科主任 合志 智子

情報科の授業が目指すもの

コンピュータの授業というと、タイピング、Wordなどのワープロソフトや PowerPoint といったプレゼンテーションソフトの使い方を繰り返し練習し、覚えるようなものを想像される方が多いのではないのでしょうか。SIS の情報科では、「情報科の授業＝情報機器やコンピュータソフトの使い方」という捉え方で授業を組み立ててはしません。これまでのこの「シリーズ

世界は千里でひとつになる The World Comes Together in Senri」の連載のなかで何度か紹介されていますが、SIS の授業ではレポート作成・実験・プレゼンテーションを重視し、考える力・表現する力を徹底して養います。これは、この学校にいる最大6年間だけでなく、大学生になっても社会人になっても、世界中のどこで活躍していても必要なスキルだからです。

情報科の授業

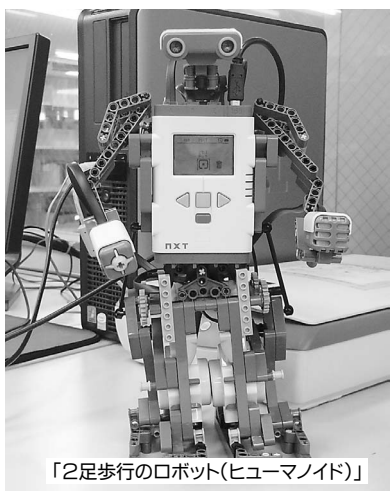
中学1年生から高校卒業までに受けることのできる SIS の情報科の授業は、全部で12講座あり、大きく分けて2つの柱に沿って構成しています。1つ目はまさにこのようなスキルのうちの「調べる・まとめる・レポートを書く・プレゼンテーションをする」力を徹底的に身につけ、他の教科で実際に活用できるようにする授業です。2つ目は、高校生向けの多種多様な、いかにもコンピュータらしい授業の数々です。現在では、コンピュータの利活用は通信やマーケティング、アートといった分野にもどんどん広がっています。各自の興味、関心、将来の目標に応じて、コンピュータを利用するいろいろな分野に、広くもまた深くも取り組めるように工夫しています。

情報科におけるプレゼンテーションへの取り組み

「調べる・まとめる・レポートを書く・プレゼンテーションをする」スキルは、情報科の授業だけで、または1つの授業を受けただけで身に付くものではありません。スキルの定着を図るために、情報科の授業では他の授業と連携して、卒業までに何度も繰り返して段階的にかつ着実にスキルアップできるよう授業を組み立てています。

たとえば、中学1年生の情報科の授業は総合科目の「知の探検隊」の授業と連携し、1年間で徹底的にこれらのスキルの基礎を身に付ける授業を行います。この授業の流れを以下の表に示しますが、一方の授業で学んだことをもう片方の授業で直ちに実践したり、一方の授業で取り組んだテーマについて、もう片方の授業でプレゼンテーションに仕上げたり、同じような手法を繰り返したりしてスキルの定着を図る仕組みになっています。

これは、帰国生、一般生が一緒に取り組む授業ですので、生徒がこれまでの異なる環境の中で身につけてきたこともさまざま、日本語力もさまざまです。それがプレゼンテーションの取り組みの中でいろいろな形で発揮され、興味深い意見や質問がでたり、予想もしなかったストーリーで話が展開したり、発表内容に鋭い質問や批評が出たり、といったこともよくあります。さらに、中学1年生でも既に自分独自のプレゼンテーションスタイルを持っていることに感心したり驚かされたりすることも少なくありません。このような中で自分の発表を行い、他の生徒の発表をいくつも見ることによって、生徒同士が互いに刺激



「2足歩行のロボット(ヒューマノイド)」

	総合科目「知の探検隊」での取り組み	情報科目「コンピュータ基礎7」での取り組み
目標	学び方を身に付ける 「調べる・たずねる・考える・まとめる・発表する」 方法を習得	基礎的なコンピュータスキルとプレゼンテーション スキルの習得
春学期	「発表を2回実施」 ・資料から情報を抽出し、まとめる ・発表する（紙芝居形式） ・発表を評価する	・ Word の操作、文書作成、描画 （他の教科でのレポート課題ができるレベル） ・ Web を使った効果的な情報の検索 ・ PowerPoint の操作
秋学期	「人物調べ」プロジェクト （テーマは歴史上の人物を1人選ぶ） ・ 図書館を使った情報検索 ・ 情報カードを使った情報の整理 ・ アウトライン作成の留意点 ・ 資料リストの作成方法 ・ レポート作成	「PowerPoint のプレゼンテーション（3分/1人）」 ・ 発表内容の構成を考えたときの留意点 ・ スライドの箇条書きの表現方法 ・ 見栄えの良い文字と図の配置 ・ 聴く人をひきつける発表に必要なこと ・ 質疑応答 ・ 発表の評価方法
冬学期	「PowerPoint のプレゼンテーション（5分/1人）」	授業なし